

科学者に聞く ～研究・教育現場でのモデル生物の今とこれから～

本セミナーは過日盛況にて終了いたしました。当日の録画をご覧になりたい方は、[こちらをクリック](#) または本資料中央のQRコードへアクセスをお願いします。

【日時】 2023年5月30日 (火) 16:00 - 17:00 (開催終了)

【概要】 本セミナーでは、モデル生物を用いた実験手法教育の観点から、研究者の経験、生物を使用する利点、課題、今後予想される研究・教育における変化について探っていきます。
また、研究・教育現場にてJoVE科学動画リソース* が生物の使用をどう補い、時には置き換えていけるのかについて、実際にモデル生物を扱う研究者を招いて模索していきます。

*モデル生物の取扱い、および実験手法の習得に特化した研究・教育動画コンテンツ

【参加対象者】 研究・学習におけるモデル生物の使用がどう進化しているのか、次世代教育リソースによって手法の習得がどう補われているのかに関心を持つ研究者・教育者・学生

【形式】 オンライン-ZOOM 日本語、無料

【登壇者】 小泉 周先生 (自然科学研究機構)
升本 英利先生 (理化学研究所)
中嶋 悠一郎先生 (東京大学大学院薬学系研究科)

【進行】 プラット 絵麻 (JoVE カリキュラムスペシャリスト-日本担当)

見逃し配信は[こちら](#)から



JoVEオンラインセミナー:

科学者に聞く～研究・教育現場でのモデル生物の今とこれから～

概要

モデル生物を用いた実験手法教育の観点から、研究者の経験、生物を使用する利点、課題、今後予想される研究・教育における変化について探っていきます。(日本語・無料)

進行: プラット 絵麻 (JoVE カリキュラムスペシャリスト 日本担当)

📅 2023年5月30日

🕒 16:00 - 17:00



中嶋 悠一郎先生
東京大学大学院薬学系研究科



小泉 周先生
自然科学研究機構



升本 英利先生
理化学研究所

【日本総代理店】



登壇者の経歴やセミナー内容など
詳細は2枚目を参照ください



【登壇者】



小泉 周先生（自然科学研究機構）

慶應義塾大学医学部卒業。卒後、生理学教室で、電気生理学と網膜視覚生理学の基礎を学ぶ。2002年米ハーバード大学医学部リチャード・マスランド教授に師事。2007年に帰国し、自然科学研究機構生理学研究soの広報展開推進室准教授。2014年より、大学共同利用機関におけるURAとして、自然科学研究機構本部の研究力強化推進本部・特任教授（統括URA）。この間、文部科学省研究振興局学術調査官、JST科学コミュニケーションフェロー、文部科学省・科学技術学術審議会・基礎研究振興部会・臨時委員を兼任。THE世界大学ランキング国際アドバイザーボードメンバー。大学の研究力分析手法の開発、大学の社会インパクトに関する分析などを実施。



升本 英利先生（理化学研究所）

1999年京都大学医学部卒業。約10年の心臓血管外科研修ののち、京都大学医学研究科・iPS細胞研究所（CiRA）博士課程、2012年医学博士。2013年米国Louisville大学博士研究員。2015年CiRA特命助教、2016年京大病院心臓血管外科助教。2017年より理化学研究所生命機能科学研究センター臨床橋渡しプログラムの研究リーダーとして研究室を主宰。2023年4月国立循環器病研究センター再生医療センター特任部長（理研兼任）。ヒトiPS細胞技術の心臓再生医療および創薬への臨床応用、様々な動物疾患モデルを用いた心臓血管外科手術の成績向上・新規治療法開発に関する研究に従事している。



中嶋 悠一朗先生（東京大学大学院薬学系研究科）

愛知県岡崎市出身、東京大学薬学部卒業（2006年）、同大学院薬学系研究科修了（2011年）、米国ストワーズ医学研究所（2011-2016年）、東北大学学際科学フロンティア研究所・助教（2016-2021年）を経て2021年より現職。生物のしなやかさや恒常性に興味を持って、細胞から個体レベルの可塑性に注目した研究を展開。ショウジョウバエを使って、栄養変化や病態、加齢に伴う細胞運命の変化を研究している。また、刺胞動物のエダアシクラゲを使って、温度応答や器官再生、若返り現象の理解も目指している。生命現象の背後にある「細胞の振る舞い」を可視化し、そのメカニズムを分子レベルで明らかにすることを研究スタイルにしている。

【内容】

- 開会挨拶・概要説明
- 登壇者研究紹介
- パネルセッション「研究・教育におけるモデル生物」
 - ＊ 研究者各自のモデル生物における学習経験
 - ＊ モデル生物に関する海外と国内の相違
 - ＊ モデル生物使用に対する学生の反応
 - ＊ 生物を用いた実験を教える・習う必要性生物を扱うテクニックの習得方法
 - ＊ モデル生物の今後：進展、課題、野望
- 質疑応答
- 閉会挨拶